## 基礎 徹底 演習 問題プリント

図形と方程式①

[35]

座標平面上に2点 A(-2, -1), B(-1, 6) と直線 l: y = 2x - 2 があり, 点 P を l 上の動点 とする。

- (3) l に関して点 A と対称な点の座標は ( $\Box$  ,  $\Box$  ) である。また、AP+BP が最小となるときの点 P の座標は ( $\Box$  ,  $\Box$  ) である。

ア	1	ウ	エ	オ	カ	丰	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ

## 年 組 番 名前

36

座標平面上に 3 点 A(-1, 8), B(-4, -1), C(3, 0) があり、四角形 ABCD が平行四辺形 となるように点 D をとる。

(1) 点 D の座標は

である。

(2) 点 A を通り、辺 AB に垂直な直線の方程式は

$$y = \boxed{\begin{array}{c|c} \dot{\mathcal{I}} & \dot{\mathcal{I}} \\ \hline \dot{\mathcal{I}} & \end{array}} x + \boxed{\begin{array}{c} \dot{\mathcal{I}} \\ \dot{\mathcal{I}} \\ \end{array}}$$

であり、この直線と辺CDとの交点をEとすると、点Eの座標は

である。

(3) E を(2)の点とするとき、3 点 A、C、E を通る円の方程式は

$$x^{2} + y^{2} -$$
  $\forall x -$   $\Rightarrow y -$   $z = 0$ 

である。